

1. 会議議題

○第3期沖縄県スポーツ推進計画策定に対する審議

2. 開催日時・場所

(1)日時：2026年（令和8年）7月27日（月）15時00分～17時00分

(2)場所：沖縄県庁 6階第2特別会議室

3. 出席者

(1)委員：宮城会長、宮里委員、青田委員、名幸委員、慶田花委員、平良委員、岩井委員、喜友名委員、大城敦委員、濱本委員、大城史子委員

(2)事務局：文化観光スポーツ部 高宮城統括監
スポーツ振興課 黒田課長、有馬室長、知花班長、東恩納班長

4. 議事概要

（委員からの主な質疑・意見）

(1)部活動の地域連携・地域展開について

○次期計画（第3期）の計画終了時期と、国が目指す「原則休日の部活動の地域展開実現」の時期がちょうど重なる（令和13年度）ため、具体的な位置づけや離島も含めてどのように進めていくのかを計画の中に明記してほしい。

○部活動の地域展開について、名護市等の現場を見ていると今後の県内の様々な課題解決に繋がると感じるが、一番の課題はやはり予算の問題である。県として全体的な具体的な方針を示してほしい。

(2)国の基本計画との整合および社会課題解決へのアプローチ

○国の「第4期スポーツ基本計画」の中間報告の要素（競技力向上を単に目指すだけでなく地域・社会へ還元する、スポーツの意義や価値を通じて社会課題を解決するなど）が、今回のたたき台では少し薄く、第2期の延長線上の表現が多い印象を受ける。国のトレンドを上手く取り入れ、目標にある「交流促進」にとどまらず「社会課題の解決」という表現へ踏み込んで検討してほしい。

○社会課題の解決はスポーツの分野だけでは難しいため、県としても横断的に連携して取り組むという姿勢をこの計画の中に強調してほしい。スポーツ振興課だけで完結するような印象を与えないよう、横断的な取り組みを明確にしたい。

(3)スポーツ医科学拠点の形成について

○施策の方向性にある「スポーツ医科学拠点の形成」について、数値目標（KPI）の設定や振り返りが行われておらず、現状は苦戦している印象がある。盛り込むのであれば、今後どの機関が主体となり、JISS（国立スポーツ科学センター）の拠点化の際のようにどの大学と連携してどう進めるのかまで踏み込んで計画に入れてほしい。

(4)学校体育施設の開放拡大と老朽化対策について

○市町村における小中学校の学校開放はかなり進んでいるが、県立高校などはほとんど、あるいはほぼ開放されていない状況が見受けられる。こうした部分を進めないと活動したい団体が活動できないため、どうしていくのか。また、老朽化による建て替えや補修の時期を迎えている市町村体育施設の改修状況等を具体的に計画に盛り込むのか。

○小中学校の夜間一般開放事業は予約で埋まっているが、県立学校の体育館や施設についてはまだ活用できる余地があると感じる。夜間開放や管理体制の工夫を行うことで、実施率を高めるための施策としてぜひ早期に取り組んでほしい。

○学校施設の一般開放について、国や県がエアコン（クーラー）の設置を進めていると思うが、利用者の安全・安心な活動に関わる重要な問題である。予算がかかる部分かと思うが、具体的な計画も含めて検討してほしい。

(5)計画の実行に伴う「予算の担保」について

○計画実施の際に、実施機関や団体がどういった立場で何を担うのか。また、実際に予算はあるのか、予算をつけてもらえるのかという点が一番気になる。県の計画を推進するにあたり、制度的な担保や国の予算の紹介、関係団体の補助金メニューの提示など、実施側にも分かりやすい見通しを示してほしい。

(6)民間企業・民間団体との連携について

○前計画までの振り返りで、スポーツ実施率の向上がなかなかうまくいっていない課題がある。民間企業も社員のスポーツ実施率向上に取り組んでいるが、行政側が民間企業を巻き込み、活用するアプローチがまだ少し弱いと感じる。既存の民間団体の力を巻き込み、意見交換会を開催するなどしてブラッシュアップしていくことが必要ではないか。

(7)「沖縄らしさ」を盛り込んだ目指す姿について

○次期計画で掲げる5つの「目指す姿」に、温暖な気候、アジアに近い地理的優位性、合宿のしやすさといった「沖縄県らしさ」を盛り込んでほしい。また、同じような施設や施策を作るのではなく、各市町村が持っている異なる強みや特色をうまく引き出す取り組みを計画に盛り込んでほしい。

(8)子どもの運動習慣二極化と、総合型クラブの活用について

○子どものコロナ禍における運動離れの悪影響を今後どのように解消していくかが重要である。また、子どもたちの運動習慣において「週 420 分以上」という指標はどのような位置づけ・根拠なのか。さらに、地域コミュニティ形成や部活動地域展開の担い手育成にもつなげるため、「総合型地域スポーツクラブ」を計画の強化策に取り入れてほしい。

○小学校への「体育専科」の配置・増員は、子どもが生涯にわたってスポーツに親しむ視点において非常に大きいため、ぜひ推進してほしい。また、未来創造計画における「幼児期の取り組み」という表記の対象を「生徒」まで広げることで、部活動など様々な取り組みに繋げてほしい。

(9)専門人材の育成、蓄積、およびアスリート等の活用について

○元スポーツ選手やプロアスリートを学校へ派遣するなどの取り組みを盛り込んでどうか。また、指導者だけでなく、地域課題解決を図るための「コーディネーター」や、総合型クラブにおける「マネジメント人材」を育成・継続する仕組み、さらには継続的なスポーツ行政を進めるための「スポーツ専門職」の配置を検討してほしい。

(10)市町村・関係団体への意見照会の時期について

○市町村や関係団体への意見照会スケジュールが例年ギリギリになっている。より多くの意見を取り入れるため、一次素案などもっと早い段階でヒアリングを行い、意見を取り入れる形にされた方が良いのではないか。

(11)令和 16 年「国スポ・全スポ」に向けた会場整備とバリアフリー対策

○8 年後に開催される国スポ・全スポに向けて、空調対策やバリアフリーを含むパラスポーツに対応した施設整備などが市町村において本当に間に合うのか、明確な見通しが見えないため、県の肌感覚をお伺いしたい。

(12)「見るスポーツ」を通じた非実施層への普及啓発について

○スポーツを全くしない人を「0→1」にする取り組みは非常に難しい。先日の WBC 等のテレビ地上波でのスポーツ観戦は子どもたちへの影響が計り知れないため、無料で見ることができる環境を整えていくことも、スポーツ非実施層の関心を高めるステップとして重要ではないか。

○メジャーなスポーツは機会が多いが、マイナーなスポーツや、それらを生で見る感動を味わってもらう機会が少ない。競技誘致等を通じた「観戦機会」の増加に向け、市町村や企業・民間と連携して検討してほしい。

○いきなり競技スポーツを始めるのはハードルが高いため、ニュースポーツやレクリエーションスポーツ（ボッチャなど）を通じて、全く運動したことのない子どもたちでも関心を持つきっかけになるのではないか。そうした内容も施策に盛り込んでほしい。

(13)計画の広報およびパブリックコメント（県民意見募集）のやり方の工夫について

○計画が非常に複雑であり文字だけでは伝わりにくいため、パブリックコメントの際は、ポイントを押さえた3分～5分程度の分かりやすい「解説動画」を作成し、幅広く県民から意見を募る形にしてはどうか。

(事務局回答)

○本日は委員の皆様から多岐にわたる貴重な御意見をいただきました。いただいた御意見を踏まえ、庁内関係課や民間事業者・関係団体等と連携しながら、第3期沖縄県スポーツ推進計画の第1次素案の作成に向けて、内容の充実を図りながら検討を進めてまいります。

6. 会議の公開・非公開の別

○非公開

7. 非公開とした理由

○委員による自由かつ率直な意見表明の機会を確保するため